

有珠火山 エコミュージアムの試み

三松三朗（三松正夫記念館・昭和新山資料館）
田鍋敏也・土門秀樹（壮瞥町役場）

Current progress and future improvements of Ecomuseum Project, Usu Volcano
Saburo Mimatsu (Mimatsu Masao Memorial Museum),
Toshiya Tanabe, Hideki Domon (Sobetsu Town Office)

1 はじめに

有珠山では20世紀のわずか90年間に四回の噴火を体験し、その都度地域の人々は辛酸を舐めてきた。そのような短周期で噴火を繰り返す地域であってさえ、活動期は短く、地域に恵みを与える平穏期は長いという火山の特性から、災害の記憶は短時間で風化した。

1910年噴火では明治新山と洞爺湖温泉を、1943～'45年の活動では麦畑変じて昭和新山を生み出した。それらを観光資源として利用し、火山のテリトリーの土地開発を進め、地域の発展という誤解で自ら火山災害に弱い環境を進化させてしまった。

そして高度成長に浮かれる1977年に179年振りの山頂噴火に遭遇し、人々は噴火という自然現象に自らの無力を思い知らされ、火山の災害面を忘れていたことに反省し、火山との共生の道を模索する機会となった。

2 エコミュージアムの認知

1977年噴火はその後も続き、噴火終了後も有珠新山の成長に伴う地殻変動が続き、地域経済は大打撃を受けた。

その被害の反動から、災害に強いまちづくりの声は押さえ込まれ「復興・復旧」のかけ声で災害の痕跡を全て敏速にかき消し、「カムバック観光客」を急いだ。が、時代の不況化の流れもあって噴火以前の賑わいに戻らず、この地に生活することを考えた時、見せかけだけの安全で次期噴火がどうなるか、備えを！の思いが次第に芽生え始めた。

「観光地で災害、防災を口にするに客が減る」と、タブー視されてきた防災啓発施策・ハザードマップの公表への抵抗も逡巡していった。

30年の安心を信じていた人々を裏切るように、2000年3月31日に有珠山の西山麓、主要国道の傍らで22年振りの噴火を始めた。が、適切な科学者の事前判断と過去の噴火体験を活かした避難行動のお陰で人身事故皆無の成果を挙げ得た。

この中で、子ども郷土史講座や登山学習会、防災まちづくり講演会など、有珠山の平穏期に壮瞥町が積極的に取り組んだ啓発事業の重要性が認識され、火山防災に積極的ではなかった地域の住民からも「災害の遺構を防災教育に、災害の痕跡を観光の目玉に！」という声があがるようになった。

幸いにも北海道が策定した「平成12年有珠山噴火災害復興方

針」の一つの柱として「エコ構想」の積極的推進が決定され、洞爺湖周辺の1市3町2村で構成する「レイクトピア21」推進協議会にエコ構想策定部会（現在は推進部会）が設置され、国、北海道等の強力な支援のもとでプロジェクトが推進されている。

3 エコミュージアムの現状と将来への展開

メインテーマは『「火の山」・「北の大地」の歴史あふれる自然博物館』であり、有珠山周辺は「火山の恵み（遺構）エリア」として火山災害の爪跡を『火山と共生してきた地域の歴史を伝承する語り部』と位置づけ、保存・整備（展示）を進めている。

既整備の火山遺構

壮瞥町 1943～'45年 新山生成で持ち上がった国鉄鉄橋跡、
1977～'82年 地殻変動で倒壊した病院跡、
有珠外輪山自然遊歩道、有珠火山噴出物露頭
虻田町 2000年 西山山麓火口群遊歩道、
金比羅山麓災害遺構群散策路と
町営住宅・公衆浴場・流失橋（砂防ダム内保存）

今後、情報拠点コア施設（仮称）壮瞥町防災・観光情報センター（H18）や誘導・解説サイン整備（H17-18）を予定

ハード的な整備にあわせ、フィールドを活用したソフト的な取組、学習型エコツアーや修学旅行の誘致活動が「エコミュージアム友の会」と民間事業者などの連携により試行されている。

これらの資源を住民、観光客が訪れることにより、地域の災害環境の認識と共生の歴史の伝承が図られ、将来の減災効果とともに観光産業の振興も期待できる。

有珠山にしかない資源を活かし、関係機関の協力を得ながら、住民とともに息の長い地域のプロジェクトとして「エコミュージアム」を育てていきたいと考えている。

エコミュージアム構想（壮瞥町HP）

URL <http://www.town.sobetsu.hokkaido.jp/eco/index.htm>

TEL 0142-66-2121 FAX 0142-66-7001

Email kikaku@town.sobetsu.hokkaido.jp

エコミュージアム友の会

URL <http://www005.upp.so-net.ne.jp/usuvolcano/>

Email ttanabe@js2.so-net.ne.jp